令和８年
第　２　回

花巻市議会定例会請願陳情文書表

（令和８年６月１２日）

受付番号	第４号　請願	受理年月日	令和８年５月２７日
件名	大迫地域の中心市街地の振興策の一助とされる「エーデルワイス展示館」の整備の促進が図られることを議会として監視することについて		
提出者	花巻市大迫町大迫３－１０３－２ ＮＰＯ法人　早池峰の里元気倶楽部 会長　多田　和広	紹介議員	伊藤　忠宏 羽山　るみ子

要　　旨

趣旨

大迫地域の中心市街地は上町、仲町、下町、川原町で構成されていますが、かつては生活に欠かせない品々を販売する商店が各町に点在し、特に仲町には商店が軒を連ね、大迫の町の顔として賑わっていました。

しかし、全国的に自動車の大衆化、バイパスの整備、規制緩和による大型店の進出、特に郊外への全国チェーン店の進出などによって、既存の零細な商店の廃業や、商店が軒を連ねる商店街の衰退が顕著で、大きな社会問題ともなっているわけですが、これは本市にも当てはまるもので、その中でも特に大迫商店街の現状は大変厳しいものがあります。

その現状を裏付けるものとして、商品を購入していただいた方々にスタンプを提供しているお店は、新市と合併のころは約１００店舗ほどあったものが、２０年を経た現在は１０店舗ほどにまで減少している―ということからもご理解いただけるものと思います。

このような状況のため、大迫の商店街を見ていただければ一目瞭然だとは思いますが、更地のままの状態、空き家のままの建物、町から出て行く事業主もあるなど、地域住民からは歴史ある大迫の中心市街地の今後の行方が心配されています。

新たに出店する事業主もありましたが、残念ながら継続できず、廃業に追い込まれたり、建物を売りに出している商店主もみられます。

そんな中、参入される若手事業主もいて、頑張っている既存商店主と連携してのイベントを開催するなど、明るい兆候も僅かに見られていますが、年々商店主の高齢化が進み、後継者もいない中で、大迫商店街として何とか存続するために残されている時間は限られているのではないでしょうか。

花巻市では令和３年に「大迫地域まちなみ整備事業推進委員会」を組織し、既存の大迫地域中心市街地顔づくり委員会とも連携して、現存する宿場らしい建物の保存や修景の保全を図りながら、落ち着いたたたずまいを未来への遺産として活用することを目的に事業を展開していることはご承知のとおりであります。

本事業に寄せる地域住民の期待は大きく、特に大迫地域まちなみ整備事業推進委員会

が策定した令和６年から令和８年までの仲町地区まちなみ整備３カ年計画の中でも、特に人を呼び込むことのできる持続可能な観光のまちづくりの柱ともなるであろう景観整備への希望者を求めているわけですが、事業の趣旨には賛同しながらも、景観にあった建物の整備に取り組もうとする商店主が現れていないのが現状のようです。

イベントの開催期間中は賑わいを見せる商店街ではありますが、人を呼び込むことのできる持続可能な観光の町を目指すには、店を継ぐ人もいない現状下にあっては、イベント以外の日でも、当初、多くはないにしても、恒常的に商店街を歩く人の訪れを肌で感じられるようにでもならない限り、未来に向けた投資には踏み切れないのが実情ではないでしょうか。

そんな中、ここまで大迫地域の中心市街地が衰退するなどとは思ってもみなかったのでしょうが、「少しでも中心市街地の活性化に役立つのであるならば・・・」と、ご自身が一生をかけて集めてこられた貴重な資料の寄贈を申し出る奇特な方がおられました。

その方は歴史ある日本山岳会の名誉会員でもあり、昭和３０（１９５５）年には女性だけで組織されるエーデルワイスクラブを創設し、以後５０年余り会長職にあり、その後、名誉会長を務められた坂倉登喜子氏（１９１０～２００８）であります。

坂倉登喜子氏は早くから山を歩かれ、山岳雑誌に登山ガイドを数多く執筆されてきた方ですが、ご自身が山岳雑誌などに紹介されているものも多く、ＮＨＫ出版の「輝く明治の女たち」、くもん出版の「総合的な学習・高齢社会ってどんな社会」や、女性スポーツのパイオニアたちの実践調査などなど、全国の皆さんに、高齢社会を生きるお手本として数々の本で紹介されている方でもあります。

更に、ご自身の山の体験をまとめられた本や、女性に向けた山の紹介などの著書もあり、それらに関わる手書きの原稿のほか、幅広い交流から寄せられた著名人の手書きの原稿も大切に残され、山岳図書や山岳雑誌なども数多く所蔵されています。

また、日本山岳会や大学の山岳部など一流のクライマーが命懸けで挑んだヒマラヤ高峰への挑戦や偉業達成後の下山時に、目に着いたエーデルワイスの花を押し花にして坂倉登喜子氏に贈る方々、著名な山岳画家の描いたエーデルワイスの水彩画、世界のエーデルワイスの花の特徴が一目で分かる大学教授の描いた絵、エーデルワイスをシンボルとしている世界各地のワッペンなど、数々の貴重な資料が坂倉登喜子氏のもとに集まるのでした。

ご自身も日本各地のウスユキソウに関する土産品や、２０回を超すエーデルワイスを訪ねる「アルパイン・ツアー」で、スイスやフランス、オーストリアなどを訪れる度に買い求めてきたエーデルワイスをあしらった土産品や商品なども多数集められ、日本一のエーデルワイス・グッズコレクターとしても広く知られる存在でもありました。

ご自身が創設のエーデルワイスクラブは、高山に咲くウスユキソウの仲間である日本のエーデルワイス、世界のエーデルワイスを訪ね歩く親睦団体で、単に山の頂に挑戦する岳人ではなく、現在にまで続く山歩きの楽しみ方を率先して行ってきた先駆的ハイカー集団であり、エーデルワイスクラブの活動は高く評価され、また、それら活動に関わる映像による記録や１００号を超す会報も発行されています。

日本百名山を紹介するＮＨＫの番組では、坂倉登喜子氏が早池峰のガイド役を務められているほか、早池峰を取り上げる全国版の映像や山岳雑誌でも坂倉登喜子氏が登場し、

その中で「日本のウスユキソウの中でハヤチネウスユキソウが一番美しく、ヨーロッパのエーデルワイスにとてもよく似ています」と全国に向かって宣伝してくれている方でもあります。

ハヤチネウスユキソウとエーデルワイスとの花の取り持つ縁で「大迫町」とオーストリア国の「ベルンドルフ市」は、昭和４０（１９６５）年に友好都市を締結し、今も交流が続く、切っても切れない縁で結ばれていますが、本市を代表する名山・早池峰を代表する花がハヤチネウスユキソウで、「市の花」でもあるわけですが、この花をこよなく愛する「坂倉登喜子氏」と「花巻市」とは友好都市同様、花の縁で結ばれているのではないでしょうか。

坂倉登喜子氏は平成５（１９９３）年、東京ファッション協会の「ダイヤモンドレディ賞」に輝いています。この賞には、これまで兼高かおる氏や石井ふく子氏など各界の著名人が名を連ねるなど、とても権威のあるものです。

平成１１（１９９９）年には通販生活が行うコレクションキング王座決定戦において、エーデルワイス・グッズ所有者の坂倉登喜子氏が大賞に選ばれています。

また、「日本近代登山の父」と称されるウォルター・ウェストン氏を讃えるウェストン祭が、毎年、長野県松本市の上高地で開催されていますが、平成８（１９９６）年には５０回を迎え、その際、エーデルワイスクラブのコーラス部が長年歌を捧げてきたことに対し、日本山岳会から感謝状が贈られています。

坂倉登喜子氏は昭和２３（１９４８）年の第２回ウェストン祭から出席されていて、その際に贈られる木彫りの花や蝶、鳥を模した記念バッチと、毎回デザインの異なる手ぬぐいも大事にされていて、今はとても貴重なものとなっています。

このような輝かしい功績を残されている坂倉登喜子氏ですが、ご自身所有のエーデルワイスに関する資料について、正式に合併前の大迫町に寄附の申し入れを行ったのは平成１６（２００４）年９月２７日のことです。

当時の佐藤町長に対して、寄附採納願書に署名し、口頭で「大迫地域の中心市街地で、早池峰山の見える場所にエーデルワイス展示館を整備して下さるのならば、私の持っている“すべての資料”を差し上げます」と話されたのでした。

これまでも「大迫地域の中心市街地で、早池峰山の見える場所にエーデルワイス展示館を整備して下さるのならば、私の持っている資料を差し上げます」との話をされていましたが、畠町長、村田町長時代には、残念ながら実現するまでには至らず、佐藤町長にそのバトンが渡されている状況にありました。

佐藤町長は、その実現に向けて鋭意努めてまいりましたが、坂倉登喜子氏とは整備する施設の立地場所で合意に至らず、新市誕生に向けて１市３町による合併協議が進展する中で、合併前までの整備は難しい―として、新市に委ねることが濃厚となってきていました。

このまま坂倉登喜子氏のエーデルワイスに関する資料があやふやな状態にあると「新市建設計画」に登載予定の「エーデルワイス展示館」の位置付けが問われる―などの話も出ていたことから、坂倉登喜子氏は正式に書面による寄贈の手続きを行ってくれたのでした。

大迫地域にあっては、大迫町議会では、当倶楽部提出の「エーデルワイス記念館（仮

称）の建設整備に関する請願」を採択しています。

新花巻市が誕生し、大石市長は「新市建設計画」に登載され、旧大迫町から引き継ぎの「エーデルワイスコレクション展示館」の整備について、坂倉登喜子氏のご自宅を訪ね、今後の整備についての話し合いを行っています。

その後、大迫商工会館を解体すれば道路沿いから見えるようになる「市の蔵」を「エーデルワイスコレクション展示館」として整備する方針を固め、同会館の解体手続きに入ろうとしていた矢先、大迫総合支所側からの建物の所有者についての情報提供に齟齬があったらしく、「エーデルワイスコレクション展示館」の整備事業は頓挫してしまいました。

大石市長の次に市長となられた上田氏は、もっとも権威のある大迫町議会が地域団体から提出の請願を採択している―という現実があるのにも関わらず、「地域から整備を求める声がない」などの発言もあって心配していましたが、「新市建設計画」にも「花巻市過疎地域自立促進計画」にも盛られているはずの「エーデルワイスコレクション展示館」の整備には消極的であったと思います。

ご自身は、大迫地域の愛宕山公園内に平成２３（２０１１）年５月２２日にオープンしている花巻市総合文化財センターにおいて、坂倉登喜子氏の資料を数年間隔で見せることで対応したい―との考えで、実際、令和４（２０２２）年６月１１日から８月２８日までの期間、とても見ごたえのある「エーデルワイスの世界」と題した企画展を開催しています。

しかし、坂倉登喜子氏がご自身の資料を「多くの人に見ていただきたい！」というだけのものでしたならば、とっくに国内の有名な博物館などに資料は寄贈されていたはずです。

でも、そうではなくて、あえて大迫の町を選ばれたのは、「ハヤチネウスユキソウが日本のウスユキソウの中で最も美しい花」と公言されてきた坂倉登喜子氏は、早池峰山のふもとの町がハヤチネウスユキソウを「町の花」として大事にされていることに感銘し、エーデルワイスを「国の花」として大事に守られているスイスのように、「私が集めてきたエーデルワイスに関する資料は、この大迫の町にふさわしい」との思いで、そして、大迫の中心市街地がスイスのツェルマットの町のように、エーデルワイスをあしらった多くの品々が商店に並べられ、それを見て回り、買い求める人たちで賑わうようになれば―と。その一助に私の資料が役立つのであるならば―と大迫の町を選んでくださったのです。

今はご本人も亡くなり、これまでの約束事に縛られることはない―との考え方もあるのかもしれません。だが、このままでは多くの功績を残され、歴史に名を残すほどの方と、責任ある地方自治体として、合併前の大迫町が進めてきた行政行為の継続性を、花巻市は否定することにもつながるのではないでしょうか。

大迫町が紡いできた歴史や様々な事柄が、仮に大きく誤っていたとするならば、それは仕方のないことでしょう。しかし、今の大迫地域の中心市街地の置かれている現状に照らしてみて、当時の大迫町が進めてきた行政行為は誤っていたとは思えません。

イベント以外の日でも、町の中に人が訪れてくれる、そのきっかけづくりになるのでは・・・と期待され、他に得難い資料による魅力的な施設の誕生が、今の大迫地域の中

心市街地には待ち望まれているのではないでしょうか。

　このことから、大迫地域の中心市街地の振興の一助になるものと期待される「エーデルワイス展示館」の整備の促進が図られることを、議会として監視していただきたく、次のとおり請願いたします。

請願事項

　大迫地区の中心市街地の賑わい創出を願い、寄贈される、他に得難いエーデルワイス関連資料を有効に活用して、魅力的で、誘引力のある施設として「エーデルワイス展示館」の整備が早急に進められることと、これ以上の商店街の衰退に少しでも歯止めが掛けられるよう、期を逸することなく実施されることを、議会の持つ権限と機能を発揮して監視すること。

以上

付託委員会	総務常任委員会	審 査 結 果	